

平成30年度台湾・香港青森りんご友の会情報交換会概要

(青森りんご輸出版売力強化事業)

- 1 日 時 平成30年10月4日(木) 午後3時30分～午後5時40分
- 2 場 所 ホテルニューキャッスル3階麗峰の間(弘前市上鞆師町24-1)
- 3 出席者 台湾側: 3社、5名、香港側: 3社、4名
日本側: 48名、合計57名
(出席者名簿: 末尾記載)

4 内 容

【座長: 青森県りんご輸出協会丹代金一専務理事、通訳: 運盈商事鈴木社長】

(1) あいさつ

①青森県知事 三村申吾

「台湾青森りんご友の会」の皆様、
「香港青森りんご友の会」の皆様、そして今回から新たに御参加いただいた小売業者の皆様、ようこそ青森県にお越しくださいました。青森県民を代表して心から歓迎いたします。

皆様には、台湾並びに香港における青森りんごの輸入と販売に多大なる御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、世界各国のりんごが流通する中であって、美味しさや品質の高さを理由に青森りんごを選んでいただくなど、日頃から格別の御愛顧をいただき、深く感謝申し上げます。

さて、2017年産の青森りんごは、「トキ」を柱に、序盤の輸出が好調に推移したことや、最大の需要期である春節の注文に十分対応できたこと、さらには、香港において「王林」を中心に継続的な注文があったことなどにより、輸出量は約3万3千トンと1年ぶりの3万トン台、輸出金額は約130億円と、四年連続の100億円台を確保したところです。

これもひとえに、青森りんごを積極的に輸入していただいた台湾並びに香港の関係者の皆様、そして、生産者の日々の地道な努力と、輸出に携わる本県関係者の皆様の御尽力の賜であると考えています。

私は、これまで何度も台湾に出向き、消費者の皆様と直接触れあいながら「青森りんご」をPRしてきました。そうした中、台湾の皆様が4年連続で2万トン以上の青森りんごを食べていただいたことに、深い感慨と喜びを覚えます。

また、香港では、青森りんごの輸入量が過去最高となる八千トン台に到達し、一万トンをうかがえる市場にまで急成長してきており、これを支えている香港の消費者の皆様に対し、感謝の念に堪えません。

本年産のりんごについては、本日園地で御覧いただいたとおり、順調に生育し、



品質・数量ともに申し分ない仕上がりになっていますので、台湾並びに香港の皆様
に、自慢の美味しい青森りんごをお届けできるものと思います。関係者の皆様には、
一層の販売促進に向け、御支援と御協力をお願いいたします。

結びに、本日の情報交換会が有意義なものになりますことと、本日御参会の皆様
の御健勝、御活躍をお祈り申し上げ、挨拶いたします。

②一般社団法人青森県りんご輸出協会 理事長 北山 敏光

台湾・香港青森りんご友の会等情
報交換会の開催に当たり一言ご挨拶
を申し上げます。産地見学会から参
加いただいている皆様には、朝早く
からハードなスケジュールをこなさ
れお疲れのことと存じますが、もう
しばらくお付き合い願います。

今年は台風の多い年で、その影響
が出ないか心配いたしました但本日
無事に皆様にお会いすることができ、
心から嬉しく思います。

先月も、関西を中心とした台風災
害や北海道での大規模な地震があり
大きな被害を受けました。大きな災害が起きるたびに台湾をはじめとする国外の皆様
からお見舞いやご支援をいただき、この場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、2017 年産の日本のりんご輸出量は、最新の統計で 3 万 3 千トンを上回り、
過去 2 番目の輸出量となりました。青森県のおりんご収穫量が 41 万トン台と落ち込
む中で、3 万トン台の輸出量となったことは本日お集まりの皆様をはじめ台湾・香
港青森りんご友の会の存在が大きな力になっていると感じております。

2014 年産、2015 年産、2017 年産とりんご輸出は 3 万トン越えの時代を向かえて
います。今後も青森県産りんごの輸出を発展させていくためには、台湾や香港の消
費者が望むりんごを提供し続けるとともに、青森県の風土や青森りんごの特色を紹
介し、消費者と青森りんごの結びつきを強めていきたいと考えております。

そのために、今年は産地見学会に弘前城の観覧や絵付けの体験を新たに取り入れ青
森を体感していただきました。また消費者と直に接する小売り関係者にも声をおけ
て、この会に参加いただいております。

皆様には、今回の産地見学会を通じて青森県が大好きになっていただければと思
っております。

本日は、参加者の皆様から産地の状況をご覧いただいた上で、今後の青森りんご
輸出促進に当たっての忌憚のないご意見をいただき、本日の情報交換会を有意義な
ものとして参りたいと思いますので、最後までご協力くださるようお願い申し上げ、
開会のご挨拶いたします。



③台湾側代表挨拶 全青股份有限公司 陳 清福

北山理事長はじめ、皆様こんにちは。



本日は、りんご輸出の関係者が一堂に会してと意見交換できる機会を設けていただいたことに大変感謝しています。

今回の情報交換会の結果は、参加者がそれぞれ持ち帰って自社や関連会社の青森りんごの販売に活用していきたいと思います。

台湾での青森りんごの販売は50～60年の歴史があります。

台湾と日本は人の行き来も頻繁で互いに友好的であり、当社も青森りんごの販売を大切にしてきま

した。私も青森りんごの販売に20～30年間携わっています。

今年の台湾の市況は良くない状況です。国内産の果実の豊作基調と消費が停滞する中で青森りんごの販売が始まることになります。台湾で販売する側と輸出する産地側とが一緒に力を合わせて良い成績が残せるよう頑張っていきたいと思います。

この後台風の通過が予想されていますが、影響のないことを願っています。

今年の青森りんごの販売が順調に進むことを願ってあいさついたします。

④香港代表 Top Weal Ltd. Kenneth Lee



こんにちは、今回は香港から4名が参加しています。この内輸入業者は2名、小売関係者が2名になります。香港の青森りんご輸入量は2014年から2017年で4倍近い増加となっています。増加できたのは輸出業者の努力と行政や関係機関の協力があったからだと思っています。

青森りんご友の会が香港にもでき産地見学会や情報交換会を通じて、参加業者が産地情報を拡散し

多くの業者が情報を共有することができました。この催しは是非とも継続して実施くださるようお願いいたします。

香港に限らず台湾とも情報を共有し青森りんごの販売を続けていきたいと思っています。

香港は自由貿易地域なので世界中のりんごを消費されます。香港の消費者の好みにあったりんごを供給していただければ1万トンの目標はすぐに達成できます。本日の会議が成功裏に終わることを願って挨拶いたします。

（２）２０１８年産りんごの生産状況と台湾への輸出について

生産状況については、青森県産業技術センターりんご研究所今村所長から、りんご輸出拡大に向けた青森県の取組については、青森県国際経済課荒木課長から、さらに輸出宣伝事業について青森県りんご対策協議会加川会長と高澤事務局長から資料に沿って説明されました。

（３）情報交換（座長：青森県りんご輸出協会丹代専務）

【今年の青森りんごの販売見通しについて】

＜台湾瓦克国際股份公司 李 昭志＞

こんにちは、今年のおりんごの販売についてはまず台風の影響が懸念されます。

今年の旧正月は２月１６日で例年より遅く長く販売できた。昨年の１１月までは青森りんごの売行きは単価が高くあまり良くありませんでした。例年販売量が増えるのは１２月、１月、２月になります。

２０１７年産の台湾向け輸出量は２３，５０６トンで前年産より３，０００トン程度増加している。増加理由は春節が遅かったためで、去年に比べ今年は２週間程度長く販売できました。来年は２月５日なので来年の春節の販売期間はまずまずの長さがあります。陳清福さんが発言したとおり台湾の夏場の販売状況は良くなかった。今年は台湾国内の果実が豊作で価格も安く味も良い状況になっています。台湾全体の購買力が停滞している感じがする。中秋節は、例年は日本産のなしなどが良く売れますが台風２１号の影響で、輸送が滞り荷物が港に停滞する状況となった。

中秋節も販売は停滞気味で、いつもは中秋節の前に良く売れるアメリカ産モモや韓国産のなしの販売も低調だった。しかし、台湾の消費者は贈答用として日本産の果実を欲しがります。ただし欲しがるのは、品質の良いものに限定されます。

贈答品として果物の中で一番重宝されるのは日本産りんごです。春節の前に輸入されるのが南半球のさくらんぼ、もう一つは青森産のりんごになります。中秋節の前にトキを輸入しました。客からは今年のトキは価格が高いのに甘くないと言われました。大玉は売れるが、中玉以下は売れない状況になっています。価格高もありますが、台湾の消費者は味に敏感です。

春節に向けては、品質が販売のカギを握ると考えています。その次に重要な要素が価格になります。品質が良ければ高くても売れるが高過ぎは販売に大きく影響する。

今年産の青森りんごは玉が大きいと聞いているので、販売は良い方向に向かうと期待している。今年は、アメリカ産りんごも玉が大きいと聞いている。

⇒ トキについては、台風の影響で早目に収穫したのがあると思います。（青森県りんご輸出協会 丹代専務）

⇒ トキは産地市場で輸出相場と見られる高値の市場価格が形成されている。輸入する台湾側も誰よりも早くトキを手に入れたいとの要望がある。台湾に届く最初のトキは間違いなく味は悪いと思う。食味を軽んずることは結果として輸出を停滞させる原因となりかねない。このことは、改善していく必要があるので、輸出側、輸入側、運輸関係者が一体となって、今から早出しを抑制していかなければならない。（青森県りんご輸出協同組合 中村理事長）

⇒ 先週の土曜日に台湾に到着したものが第一便のトキだと思います。普段は初物と

してよく売れるのに今年のトキは、味が悪く仲卸の段階で売れ残っていた。価格も問題で今年の輸入価格では、小売価格は例年の35%高となる。小売業者には大きな痛手となる。輸入業者は利ザヤが小さくても良いが、小売業者は一定の利ザヤがないと販売できない。

これから、中国とアメリカの貿易紛争の影響をアジア諸国は受けることとなる。南アフリカ産りんごは、後半に価格が上がるのが一般的だが今年は、逆に下がっている。その理由は、南アフリカ産りんごの輸出先が無くなり台湾だけが受け入れているためである。また、今年の9月に関税の引き上げによりインドネシアの洋上では、船で運搬中の1,500コンテナの果実が停滞した。輸入果物は、国際情勢に左右されるので皆さんに理解してもらいたい。(全青股份有限公司 陳清福)

<香港金久有限公司 山本 和樹>

中国とアメリカの貿易紛争の影響が香港にも出てきている。香港の企業は中国本土に出資した会社を持っている。アメリカへの輸出の減少により株価の下落や景気の低迷が徐々に進行している。中秋節では香港も盛籠に果物を詰めて企業や個人の間で贈り物をする習慣があるが、今年は需要が昨年より減少している。

景気の冷え込みにより、りんごに限らず価格が高いと売りにくい状況にある。数量で増える可能性はあるが金額ベースでの増加は難しいとみている。香港は中国やアメリカ産のりんごを輸入しており、品質も重要だが価格が高いと日本産のりんごから他国産に切り替えられてしまう可能性がある。

トキの早出しや二番手クラスに特選という表示をしたりする事例が見られ、日本産りんごのブランドイメージを損なう結果となっている。長期的な取引のためにはブランドイメージが重要になる。選果や出荷の基準について、輸出する側が話し合い一定の基準を設ける必要があると考えている。青森県産りんごをブランド品としてアジアに定着させていくためにも基準の統一を進めてほしい。

トキやぐんま名月などの中生種はなぜ貯蔵性が低いのか教えてほしい。

⇒ 中生種は気温が高い時期に収穫されることや、品種の特性として貯蔵性が低く貯蔵障害も起きやすい。(青森県産技センターりんご研究所 今村所長)

⇒ スマートフレッシュを使って、トキの貯蔵性を向上できないか(弘前大学 黄教授)

⇒ 香港では、貯蔵性が高いことから王林が6～8月くらいまで売られている。

(香港金久有限公司 山本和樹)

⇒ トキをスマートフレッシュ処理している業者はみられない。(青森県りんご商協連青年会 高木会長)

【総合討議】座長(青森県りんご輸出協会丹代専務)

テーマ「台湾・香港の消費者の青森りんごに対する嗜好はどんなものか」

<全青股份有限公司 陳 清福>

トキに関しては、味が評判となった品種なので、味を優先した販売となっている。早出しなどをなくして品質が安定すればもっと販売できる品種である。

台湾の消費者が青森のりんごに求めるのは甘みが一番である。もう一点は長持ちすることなので、甘みと貯蔵性を備えたりんごであれば品種に関係なく売ること

とができる。台湾は気温が高いが小売業者は、冷蔵施設をもっていないので貯蔵性は特に重要な要素となる。

トキの早出しは台風の影響もあるが異常気象は世界中で発生しており今年は人気が高かったカルフォルニアのぶどうも食味が悪く販売が停滞した。

<青森県りんご商協連青年会 高木会長>

台湾、香港の方のお話からも品質の良い美味しいりんごを作ることができれば輸出に関わらず国内外で売れるということを認識できた。生産者も品質の低下につながる行為を慎み、自覚を持ってりんご生産に取り組むよう指導機関を含めてお願いしたい。

<弘前大学 黄教授>

台湾、香港の参加者からトキは美味しくないとの発言があった。輸入業者、輸出業者、生産者それぞれの思惑があり責任の所在は明確にできないが、品質を維持する仕組みづくりができないか商系の方には考えてもらいたい。

本来市場の機能として、品質の悪いものはセリ値が下がるがりんごの品質が市場価格に反映しないのは理解に苦しむ。

⇒ 輸入業者から早くほしいと言われると、産地市場の上場数量が少ない中でセリ落とすことになり、必然的にセリ値は上がってしまう。（青森県りんご輸出協同組合 中村理事長）

<青森県りんご輸出協同組合 中村理事長>

香港は、王林一辺倒でふじなど他の赤い品種を販売する手立てがあれば教えてほしい。

⇒ 香港で荷造りしたものは、中国に行くものが多い。ふじも販売している。南半球のチリ産ふじは実際取り扱っている。赤いりんごについては、他国との価格差を小さくすることが必要になる。

シャインマスカットや王林が中国でも作られている。青森県産りんごの特徴が何かを明確にしてアピールしないと香港での販売は伸びない。

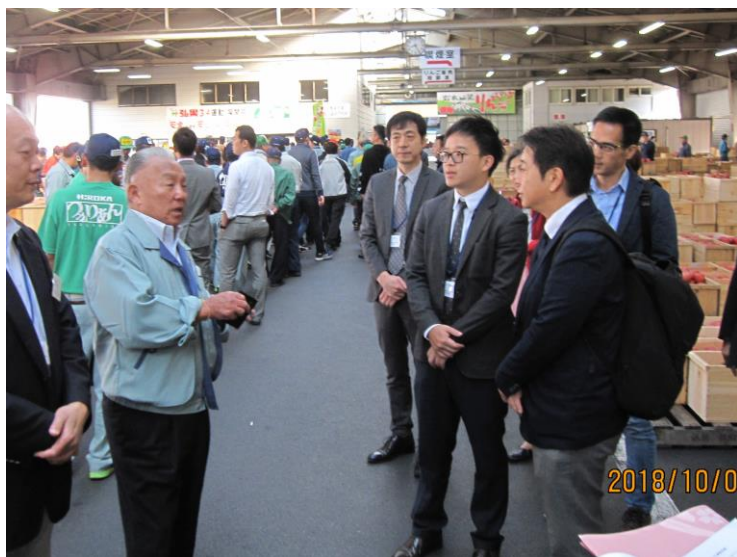
青森県産の王林も品質にバラつきが大きい。継続して需要を確保するために、今後は品質管理が大きなカギとなる。（Top Weal Ltd. Kenneth Lee）

⇒ 香港は検疫の手続きが不要なので魅力的な市場と思っている。（青森県りんご輸出協同組合 中村理事長）

5 産地見学会

情報交換会に先立って、台湾・香港からの招待者を産地見学に案内した。
訪問先

① 弘果弘前中央青果市場見学



② 青森県りんご研究所見学



③ 村上鐵雄りんご園（黒石市留岡）



④ マルジンサンアップル選果場見学



⑤ 弘前城観覧



⑥ 絵付け体験（津軽藩ねぶた村）



出席者名簿
台湾・香港側

番号	公司名	氏名
1	全青股份有限公司	陳 清福
2	全青股份有限公司	黃 蕙晶
3	全青股份有限公司	濱野 正雄
4	台湾瓦克国際(股)公司	李 昭志
5	瓦克新鮮屋	余 立元
6	Top Weal Ltd.	Kenneth Lee
7	Top Weal Ltd.	Estella Lam
8	YATA LIMITED	Lie Wai Kwong
9	香港金久有限公司	山本 和樹

日本側

番号	団体名	氏名
1	青森県知事	三村 申吾
2	青森県国際経済課課長	荒木 泰久
3	青森県国際経済課総括主幹	佐藤 新吾
4	青森県国際経済課主幹	本田 斉与
5	青森県りんご果樹課課長代理	三上 道彦
6	青森県りんご果樹課総括主幹	種市 順司
7	青森県りんご果樹課主幹	神 充
8	弘前大学教授	黄 孝春
9	青森県りんご対策協議会会長	加川 雅人
10	青森県りんご対策協議会事務局長	高澤 至
11	青森県りんご商業協同組合連合会青年会会長	高木 健太郎
12	独立行政法人青森県産業技術センターりんご研究所所長	今村 友彦
13	青森県りんご輸出協同組合理事長	中村 輝夫
14	(株)富島商事代表取締役	島崎 健治
15	(株)富島商事課長	王 婷
16	東海海運(株)営業本部海貨部課長	清水 信昭
17	東海海運(株)営業本部海貨部係長	治尾 泰之
18	WAN HAI LINES(株)駐在代表	Lance Lin
19	WAN HAI LINES(株)課長	鈴木 芳郎
20	WAN HAI LINES(株)主任	中村 勇太
21	(株)ペガサスグローバルエクスプレス課長代理	木谷 宏行
22	陽明日本(株)代表取締役	蘇 尚謙
23	陽明日本(株)統括部長	邱 建智

24	陽明日本(株)次長	詹 桂熒
25	陽明日本(株)課長代理	藤掛 純也
26	陽明海運股份有限公司副協理	宗 政杰
27	陽明海運股份有限公司	林 弘婷
28	CMACGM JAPAN(株)(CNC 正利航業)	松田 尚也
29	ティ・エス・ラインズ・ジャパン(株)	ALAN WU
30	ティ・エス・ラインズ・ジャパン(株)副部長	岩崎 雅和
31	OOCL日本支社	平山 哲
32	エバーグリーン・ショッピング・エージェンシー・ジャパン(株)副部長	金持 正幸
33	エバーグリーン・ショッピング・エージェンシー・ジャパン(株)課長	余 至善
34	藤崎町りんご生産者	中村 一成
35	青森市りんご生産者	伊藤 和雅
36	南部町りんご生産者	馬場 俊樹
37	弘前市りんご生産者	竹谷 勇輝
38	鶴田町りんご生産者	渋谷 直哉
39	板柳町りんご生産者	田中 和人

一般社団法人青森県りんご輸出協会会員

番号	役職・会社名	氏名
1	青森県りんご輸出協会理事長	北山 敏光
2	青森県りんご輸出協会専務理事	丹代 金一
3	青森県りんご輸出協会常務理事	竹谷 保
4	青森県りんご輸出協会理事	白藤 孝仁
5	青森県りんご輸出協会理事	葛西 綾子
6	全農あおもりりんご部りんご課長	坂本 浩
7	太田りんご移出(株)代表取締役	太田 一民
8	太田りんご移出(株)専務取締役	太田 雅晴
9	(株)三印白藤商店取締役	白藤 功太郎

通訳

1	(有)運盈商事代表取締役	鈴木 明達
---	--------------	-------